

# 巻頭言

『日本中医学雑誌』の第5巻第2号を皆さまにお届けします。

2015年9月12, 13の両日にわたって第5回日本中医学学会学術総会が開催されました。本学会理事の路京華先生を会頭に「中医学の継承と発展」を総合テーマに盛会のうちに終了しました。皆さまのご協力感謝申し上げます。

中国から遼儉先生、台湾から曹永昌先生はじめ多数の先生、香港から戴昭宇先生ら今回も海外からも皆さまをお迎えして交流を深めました。

北京からは中国中医界の最長老のおひとり国医大師の路志正先生をお招きする予定でしたが、高齢の先生のご体調により見合わせとなったのは残念でした。代わりに先生の後継者の路京華会頭の講演で路志正先生の学術思想を詳しく解説していただきました。また、特別企画の公開診療では、乾癱性関節炎の患者さんを、路志正先生の弟子の遼儉先生と筆者（北京留学時代に指導を受けました）と路京華先生の弟子でもある岸奈治郎先生が診察して、弁証論治を行いました。予め診察データを路会頭が北京に持ち帰り、路志正先生からこの患者さんの治療の進め方をアドバイスしていただきました。学術総会では斬新な実りある試みでした。

また、今回も「中医学とビッグデータ」「温病学の臨床応用」「穴性問題」「これからの薬剤師に求められる中医学」などの興味深いシンポジウムが行われました。そこで発表された演題を今後本誌で紹介したいと思います。ご期待ください。

さて、前回第4回の学術総会では「なにわの中医学」が総合テーマでした。会頭の西本隆先生の「なにわの中医学—その歴史と受け継がれる中島随象の遺伝子」は前号の本誌に収載しました。今号ではシンポジウム「なにわの中医学」から関西の先達、山本巖、伊藤良、松本克彦、田川和光の諸先生の業績をそれぞれの演者の皆さまから報告いただきました。シンポジウムの熱気が蘇ってきますね。出稿して下さった演者の諸先生方にあつく御礼申し上げます。

会員の皆さまから本誌への原著論文、総説、症例報告などのご投稿もお待ちしています。

2015年9月  
日本中医学学会会長  
平馬直樹